

SKYMENU 活用授業 実践レポート

習志野市総合教育センター

| | | | |
|------|-----------|-----|------------|
| お名前 | 相良 健太 | 学校名 | 習志野市立向山小学校 |
| 実施学年 | 小学校4年 | 教科 | 算数 |
| 単元名 | 垂直・平行と四角形 | | |

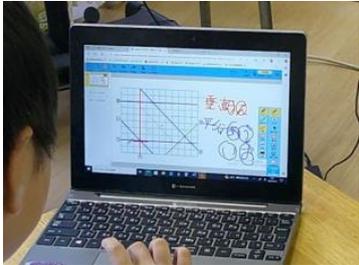
《学びを深めたいポイント》

- ・方眼紙をつかって2本の直線の垂直や平行な関係を見つけたり、かいたりすることが本時のねらいである。
- ・導入では、平行と垂直の定義について振り返るとともに、デジタル教科書をテレビに映し、交わる多くの直線を提示して興味をもたせたい。また、前時と比べて方眼紙があることにも気づきを促す。
- ・垂直・平行を見つける活動では、前時までの三角定規や分度器を使うだけでなく方眼紙を使っても見つけることができるということに気付くよう発問していく。
- ・まず、自力解決の時間を持てるよう、一人1台のタブレットを活用する。SKYMENU の「発表ノート」を活用し、教科書と同じように方眼紙に複数の直線が引かれた画像を背景化して動かないようにしたものを作成し、児童に配って思考する時間を取った。
- ・考えを深め合うために、提出箱の画面一覧から自分たちの班のものだけを選んで1画面に4つの意見を見比べて比較検討するような活動を行う。
- ・SKYMENU だとクラス全体の意見も見ることができるので、比較検討がしやすく思考も広がると考える。

《SKYMENU 活用のポイント》

- ・「発表ノート」を活用することにより、子供たち同士での意見交換や、比較検討がしやすくなる。特にグループ活動の際には、1画面に複数の友達の意見が並べられるため同じところ・違うところが分かりやすく、考えが深まった。
- ・活動の様子はモニターを使って「画面一覧」設定にしていることで友人の考えを共有することができており、考えの及ばない子は友達の考えからヒントを学ぶこともできている。
- ・「発表ノート」で自力解決→提出→提出箱を見ながら自分の班のメンバーを選択して班で話し合い→大型モニターで全体共有の手順を踏むことで無理なく、そしてノートよりも早く情報が共有できた。
- ・SKYMENU には垂直や平行線の見つけ方も分度器や三角定規というこれまでのツール(スタンプ機能)も入っているため、既習事項も確認しながら活動することができた。
- ・教師としても、画面一覧設定にしているため、手が止まっている児童が把握しやすい。学習支援もしやすくなった。
- ・本時のめあての方眼紙のマス目を使った方法も活用できるようになっていたため、本時での SKYMENU「発表ノート」の活動は有効であったと考える。

《実践内容》

| | 学習活動 | SKYMENU 活用場面 | 活用のポイント |
|-------------|---|---|--|
| 導 入 | <p>○前時の振り返りをする。 (垂直・平行の定義を確認する)</p> <p>○問題文を読み、課題が何かをつかむ。</p> | | |
| 展 開 | <p>○解決の見通しを持つ</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>方眼紙をつかって、垂直や平行な直線を見つけよう。</p> </div> <p>○自分で考える SKYMENU の発表ノートを開いて自分の考えを書き込む。</p> <p>○みんなで話しあう</p>  | <p>○SKYMENU の発表ノートにワークシートを背景化したものを貼り付け、配布し、自分の考えを書き込む。</p> <p>○ライブ提出箱を活用する。班のメンバーの発表ノートを選択し、1画面に4人の意見が並んだ状態で比較検討を行う。</p> <p>○全体で共有する際には、教師が発表児童の発表ノートを選択して共有する。</p> | <p>○タッチペンを使い直接書き込む形をとる。タッチペンがない児童は付箋を使ってもよいことを周知した。</p> <p>○班のメンバーの意見がすぐ隣で比較できるため、同じところ、違うところに気づきやすい。</p> <p>○普段であれば、ノートを実物投影機に映す作業があるが、選択するだけで共有できる。また、全児童に発表児童のタブレットを映し出すこともできるのが良い。</p> |
| ま と め | <p>○まとめ まとめ</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>垂直・平行を見つけるには、分度器や三角定規のほかに方眼紙を使う方法がある。</p> </div> | | <p>○垂直や平行線の見つけ方も分度器や三角定規というこれまでのツールに加え、本時のめあての方眼紙のマス目を使った方法も活用できるようになっている。</p> |

《実践を振り返って》

- ・方眼紙を印刷して紙で行う活動に比べて、タブレットで活動することで児童の興味・関心を引き出すことができた。また、児童一人一人がタブレットを使って自力解決を行い、比較検討ができたため、理解を深めるという点で有効であると考える。
- ・他教科でも使うことがあるが、SKYMEMU「発表ノート」を使う際には、自力解決→提出→提出箱を見ながら自分の班のメンバーを選択して班で話し合い→大型モニターで全体共有の流れがタブレットを使いながらも意見交換や全体共有がしやすく授業が流れると考える。
- ・また、算数であれば分度器や三角定規などの思考を助けるツールもあることに授業中に気が付いた。使ってみてわかることもあると改めて感じた。
- ・情報主任でもあるため、今年度 SKYMEMU を使った授業を全校に広めていきたい。